

8

万 一 の と き

工具、スペアタイヤ

工具	8-2
応急用スペアタイヤ	8-6

パンクしたとき

パンクしたとき	8-10
タイヤ交換手順	8-11

発炎筒

発炎筒について	8-16
---------	------

故障したとき

踏切で動けなくなったとき	8-18
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき	8-18
路上で動けなくなったとき	8-19
故障時の対応方法と連絡先	8-19

けん引のとき

けん引してもらうとき	8-20
他車をけん引するとき	8-24

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき	8-26
-------------	------

事故が起きたとき

対処のしかた	8-28
--------	------

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーが上がったとき	8-29
ヒューズの点検・交換	8-32
電球（バルブ）の交換	8-40
セレクトレバーが動かないとき（オートマチック車およびCVT車）	8-60
電動パーキングブレーキが解除できないとき	8-61
リヤゲートの解錠ができなくなったとき	8-63
トランクの解錠ができなくなったとき	8-64
サンルーフが閉まらないとき	8-64
アクセスキーが正常に作動しないとき	8-65

工具、スペアタイヤ

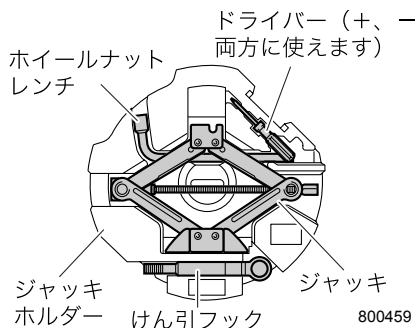
工具

次の工具が装備されています。

- 基本工具（ドライバー、ホイールナットレンチ）
- ジャッキ・ジャッキハンドル
- けん引フック
- 電動パーキングブレーキ解除工具

☆8-5ページ参照

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。
使用後は元の場所に戻してください。

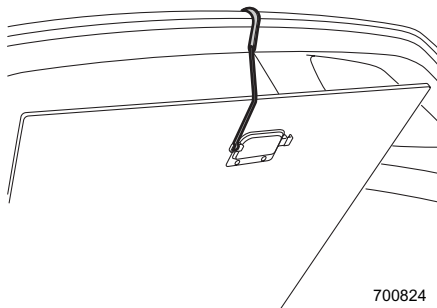


■ ジャッキ、ジャッキハンドルの取り出しかた

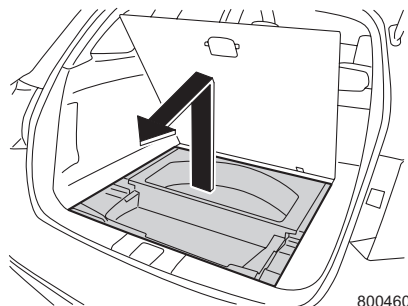
● ワゴン

カーゴルームの床下に収められています。

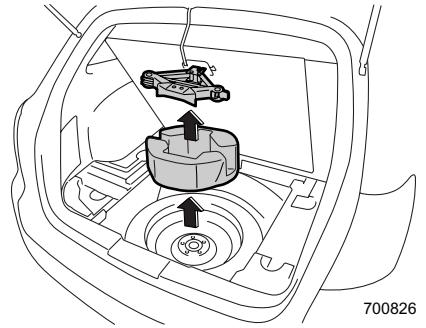
- ① カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。



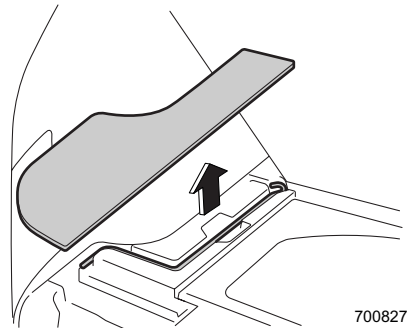
- ② サブトランクを取り出します。



- ③ ジャッキホルダーからジャッキを取り出します。



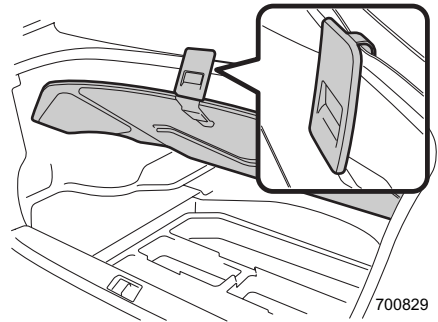
- ④ 左側のリッド（フタ）を外し、ジャッキハンドルを取り出します。



●セダン

トランクルームの床下に収められています。

- ① トランクルームのリッド（フタ）を開けます。

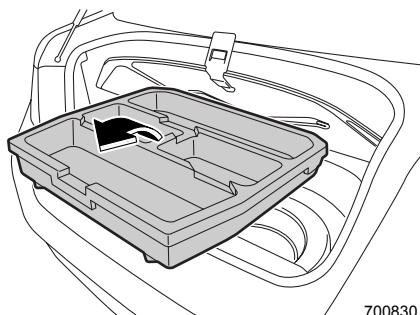


次ページへ ⇒

工具、スペアタイヤ

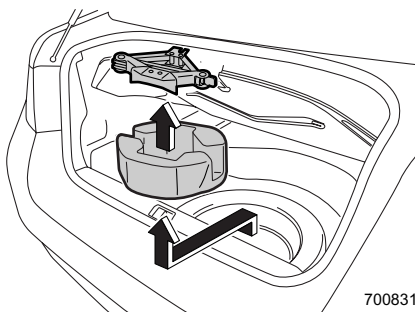
⇒前ページより

② サブトランクを取り出します。



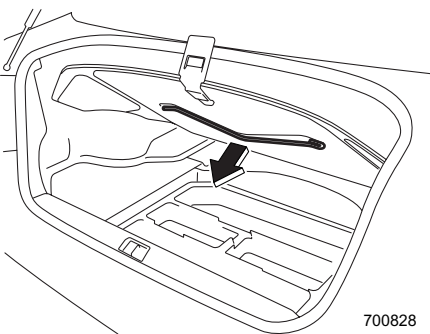
700830

③ ジャッキを取り出します。



700831

④ トランクルームのリッド (フタ) の裏に収められているジャッキハンドルを取り出します。

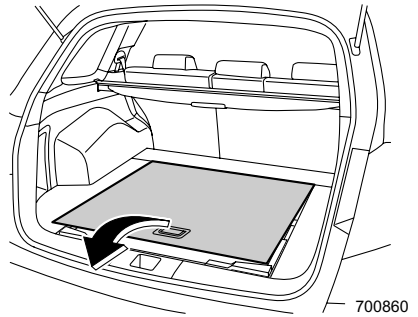


700828

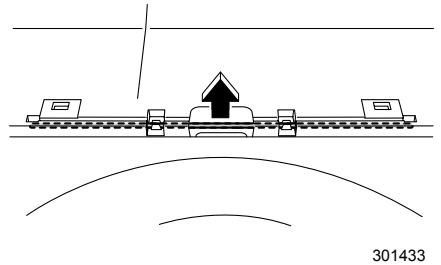
■電動パーキングブレーキ解除工具の取り出しかた

●ワゴン

- ① カーゴルームのリッド（フタ）を取り出します。

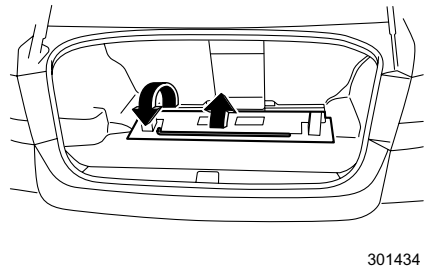


- ② 解除工具を取り出します。



●セダン

- トランクルームの奥のリッド（フタ）を上げて、解除工具を取り出します。



アドバイス

キーでトランクの解錠ができない場合は、リヤシートのアームレストを引き出し、アームレストスルーにします。

トランクルームの車両前側のリッド（フタ）を上げて、解除工具を取り出します。

☆2-59ページ参照

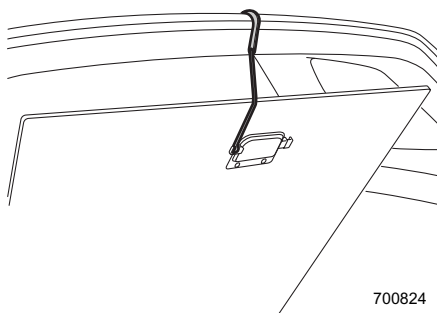
応急用スペアタイヤ

■スペアタイヤの取り出しかた

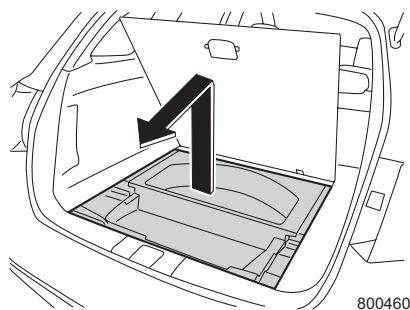
●ワゴン

カーゴルームの床下に収められています。

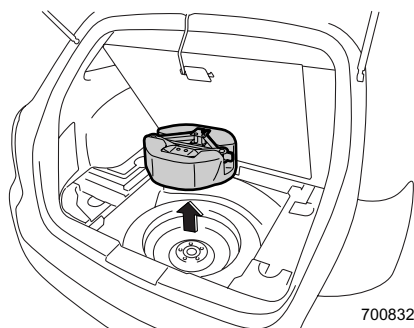
①カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。



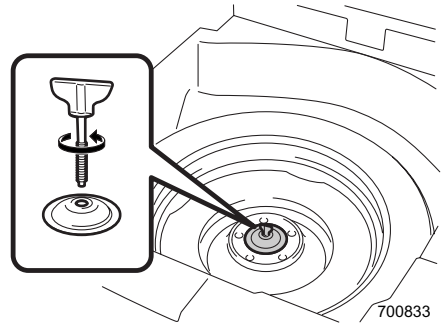
②サブトランクを取り出します。



③ジャッキホルダーを取り出します。



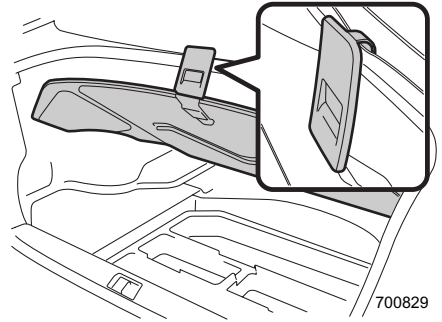
- ④ スペアタイヤを固定しているネジを外し、
スペアタイヤを取り出します。



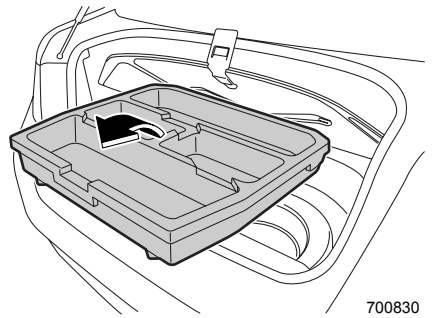
●セダン

トランクルームの床下に収められています。

- ① トランクルームのリッド（フタ）を開けます。



- ② サブトランクを取り出します。



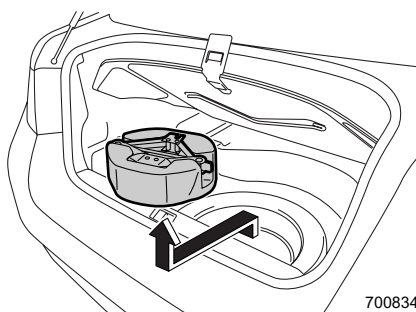
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

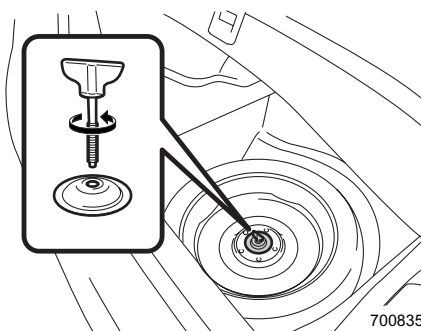
工具、スペアタイヤ

⇒前ページより

③ ジャッキホルダーを取り出します。



④ スペアタイヤを固定しているネジを外し、
スペアタイヤを取り出します。



⚠ 注意

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm²）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- ウエアインジケータが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

パンクしたとき

パンクしたとき

警告

- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進したり、ジャッキが外れるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 同乗者がいる場合は、必ず車から降ろしてください。
 - ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
 - ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
 - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
 - ジャッキ使用前に電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを **[P]** にしてください。
 - 輪止め（タイヤストッパー）などをして車を固定してください。
 - ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
 - タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め付けてください。
- ☆8-13ページ参照
- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
 - ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

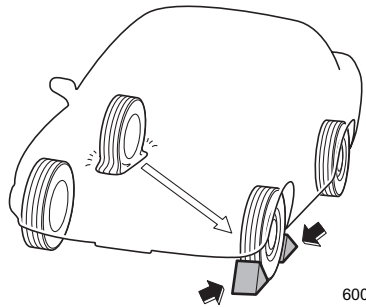
■交換前にすること

- ①交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

⚠ 注意

地面が平坦で硬く、車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

- ②電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを **P** にします。
 ③非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
 ④車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。
 （図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）



- ⑤ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、ホイールナットレンチを取り出します。

☆8-2ページ参照

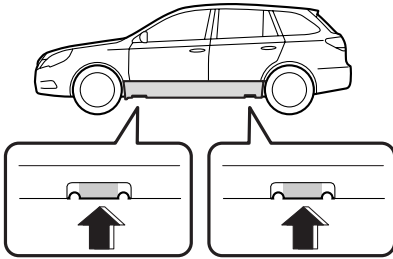
- ⑥応急用スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

🏠 アドバイス

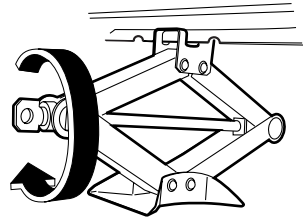
輪止め（タイヤストッパー）および停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

■ジャッキアップするとき

- ① 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。



800488



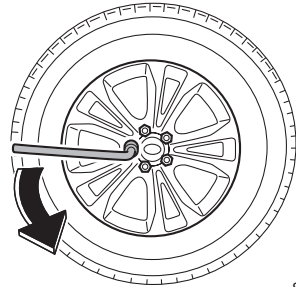
701123

⚠ 注意

ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。

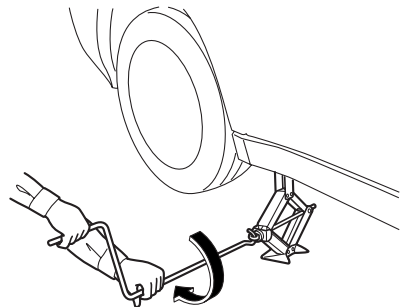
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

- ② ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。



800461

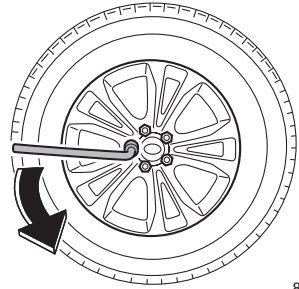
- ③ ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



700840

■タイヤ交換

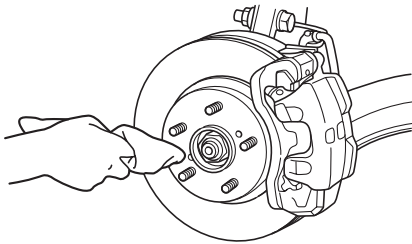
- ① ホイールナットを外します。



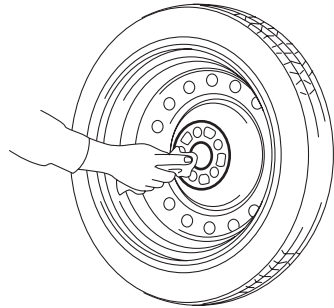
800461

- ② タイヤを付け替えます。

このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。



600061



600162



アドバイス

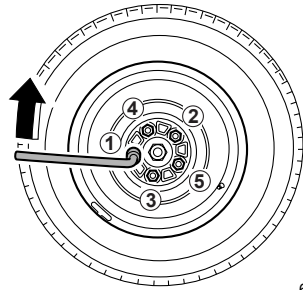
タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

次ページへ ⇒

パンクしたとき

⇒前ページより

- ③ ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
- ④ ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
- ⑤ ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。



600192

レンチの柄の先端にかける力	締めトルク (参考)
400~500 N (40~50 kg)	120 N·m (12 kg·m)

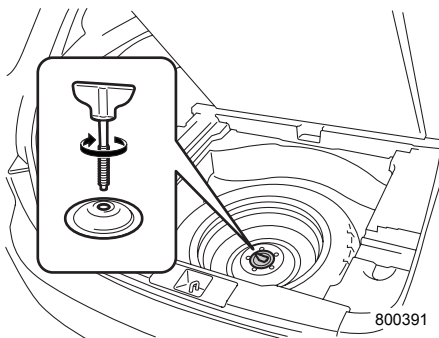
⚠ 注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油脂がついていると締め過ぎの原因になります。

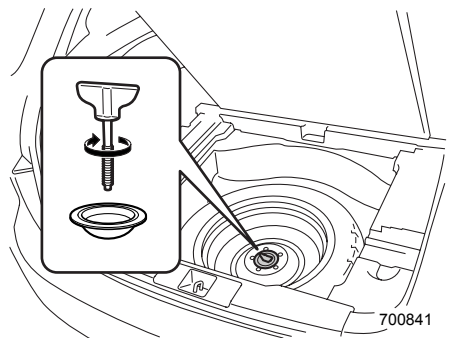
■パンクしたタイヤの格納

- ホイールのセンターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。スペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。

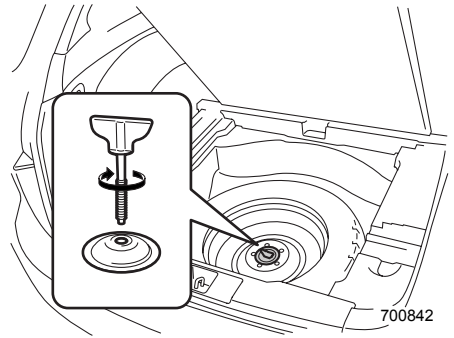
16インチホイール装備車



16インチホイール装備車以外



- パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

☆8-2ページ参照

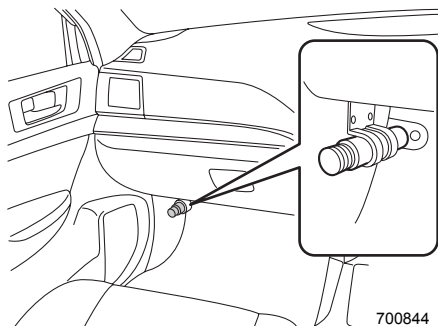
- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

発炎筒

発炎筒について

グローブボックス左下に発炎筒を備えつけています。

発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。

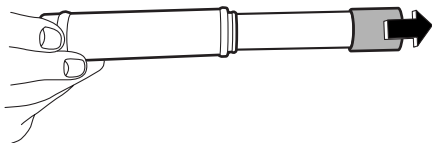


■使いかた

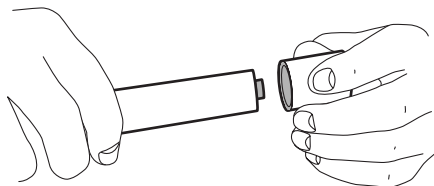
- ① ケースをひねり、本体からケースを取り外します。



- ② ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



- ③ 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



600031

警告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯（ハザードランプ）を使用してください。

☆3-24ページ参照

アドバイス

- 発炎筒は常に使えるようにしておいてください。
- 発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

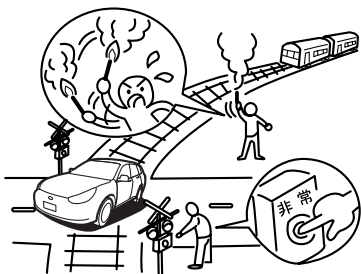
故障したとき

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☆8-16ページ参照



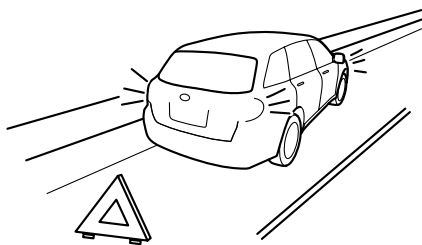
800462

アドバイス

エンジンスイッチをSTARTに保持、またはプッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。セレクトレバーが[P]または[N]以外ではスターターは回りません。

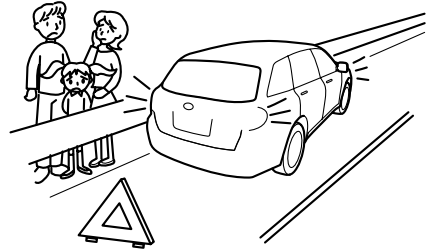
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

- ①車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。



800463

- ② 全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。



- ③ 安全を確保後、救援をたのみます。

800464

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

- ① あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
 ☆3-56、3-61ページ参照
- ② エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押しもらって安全な場所へ移動してください。
 移動するときはセレクトレバーを **N** にします。
 ☆3-68ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

- ① 車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
- ② 最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
- ③ スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスなどに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場と JAF ロードサービスの連絡先は「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAF に入会されることをお奨めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場やJAFロードサービスなどに依頼してください。

けん引してもらおうとき

■けん引方法の違い

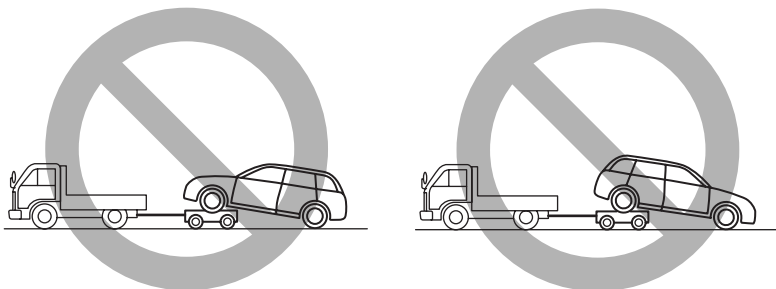
次の方法でのけん引が可能です。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合
トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引
次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
 - － 速度30km/h以下で走行してください。
 - － 走行距離は30kmを超えないでください。



注意

前輪のみを持ち上げてのけん引および後輪のみを持ち上げてのけん引は、絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

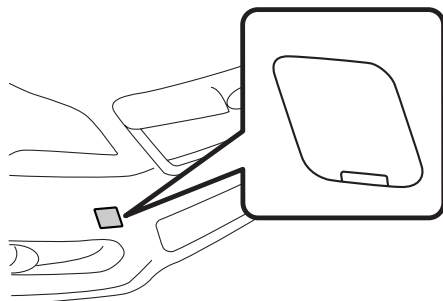


701135

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。

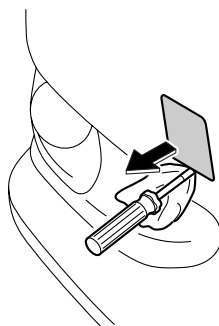
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。



800465

●けん引フックの取り付けかた

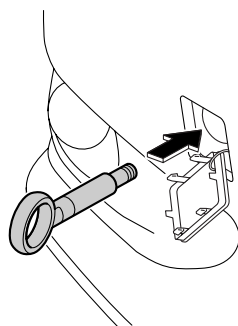
- ①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



800466

- ②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆8-2ページ参照



800467

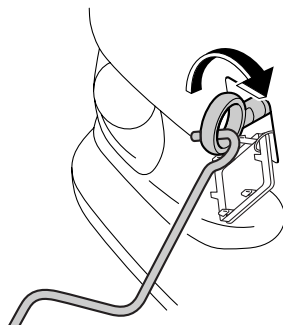
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

けん引のとき

⇒前ページより

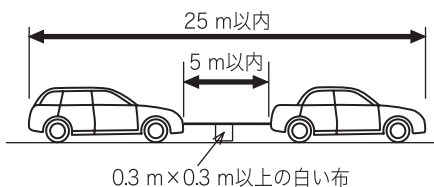
- ③ ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。



800468

●けん引方法

- ① ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布 (0.3 m×0.3 m以上) をつけます。




600023

- ② セレクトレバーを **N** にします。
③ エンジンスイッチをONにします。
④ 電動パーキングブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

警告

- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

 **注意**

- エンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
 - － ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
 - － パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 電動パーキングブレーキを確実に解除してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

 **アドバイス**

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーを損傷するおそれがあります。

他車をけん引するとき

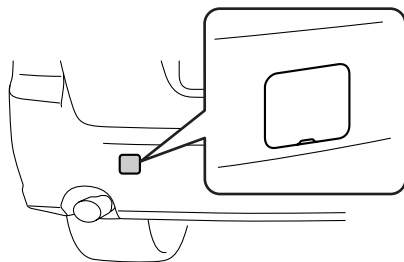
やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

■ けん引フックの取り付け位置

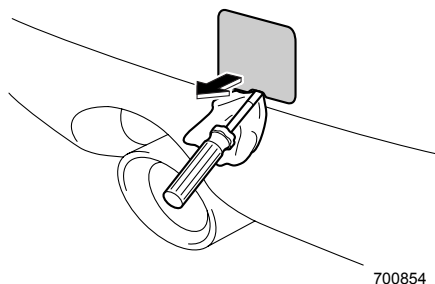
リヤバンパー左下にあります。



700852

■けん引フックの取り付けかた

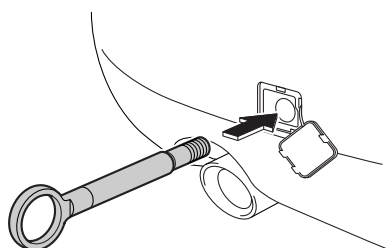
- ① バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



700854

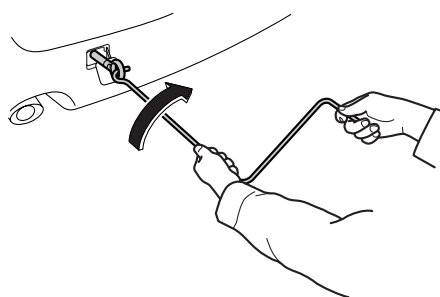
- ② けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆8-2ページ参照



700855

- ③ ジャッキハンドルなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けてください。



700856

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき

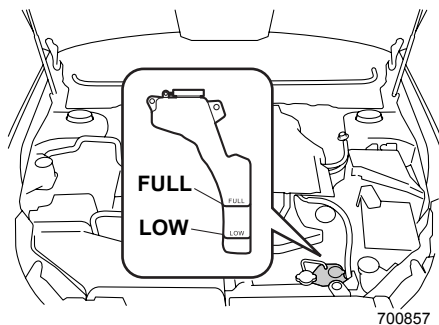
このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がオーバーヒートゾーンに入る、もしくは水温警告灯が赤色に点滅または点灯したとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

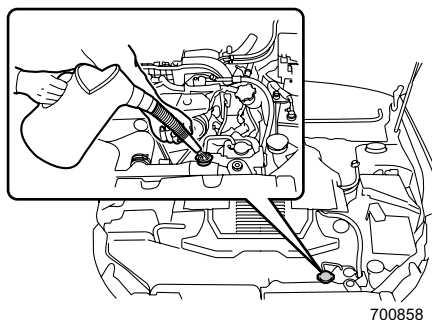
☆3-29、3-44ページ参照

■対処のしかた

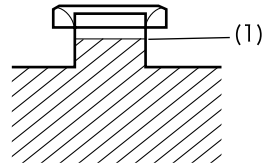
- ① 後続車に注意して安全な場所に車を止め、エアコンを止めます。
- ② 車両の状態に応じて次の処置を行ってください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。冷却ファンが回っている場合は水温計の針が下がる、または水温警告灯が消灯し、時間が充分経過してからエンジンを止めます。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
- ③ エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
- ④ リザーバタンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水はFULL位置まで補給してください。



- ⑤ ラジエーターキャップを開け、冷却水を補給してください。



冷却水はキャップの口元まで（イラストの（1）の位置まで）補給します。



700759

警告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れしないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

アドバイス

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水を使用してください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

対処のしかた

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

SRSエアバッグが作動すると、燃料の漏れを最小限に抑えるために燃料の供給を停止します。エンジンをかける必要がある場合は、次の手順で行ってください。

- ①エンジンスイッチをAccまたはLOCK (OFF) にします。
- ②エンジンを始動します。



注意

エンジンを始動する前に、燃料が漏れていないことを十分確認してください。
地面に濡れたあとがあるなど燃料漏れの可能性がある場合は、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

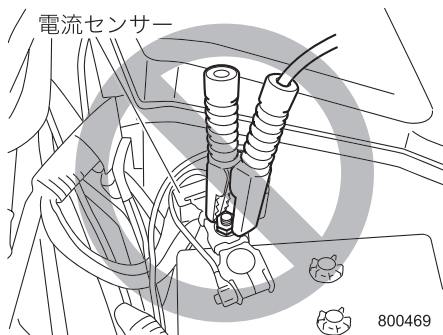
■ 対処のしかた


押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。
 - － ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - － ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
 - － 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。
 - － バッテリー⊕端子付近にある電流センサーなどには絶対にケーブルを接続しないでください。電流センサーなどが破損するおそれがあります。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふにつくと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。



 **注意**

ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ずお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装備車の場合、バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。始動しない場合は、ステアリングロックの初期化を行ってください。

☆3-4ページ参照

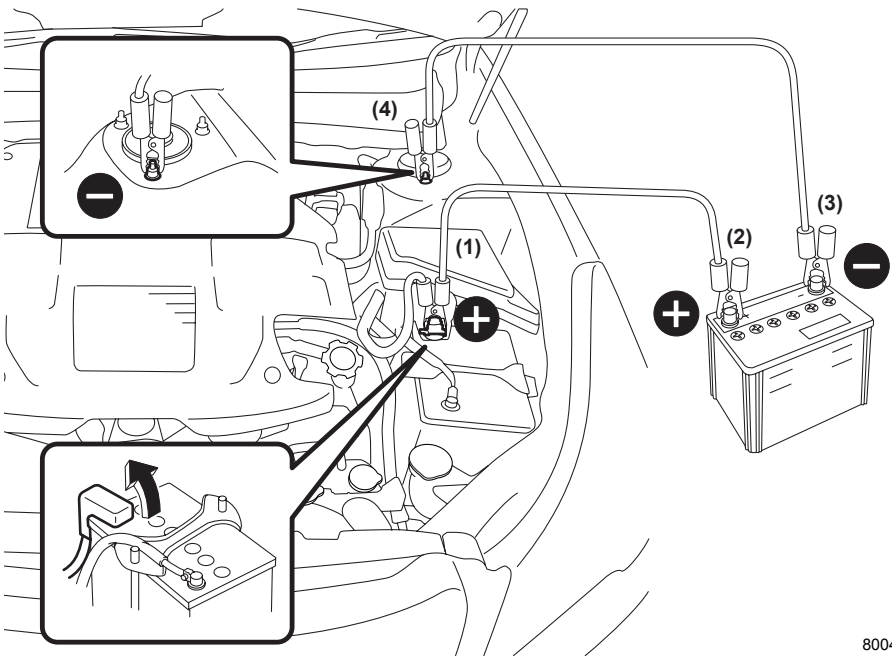
●ブースターケーブルの接続手順

- ① ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
- ② 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
- ③ 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
- ④ 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体(バッテリーから離れたボルトなど)につなげます。(4)
- ⑤ 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥ 自車のエンジンをかけます。
- ⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

🏠 アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆9-5ページ参照



800490

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

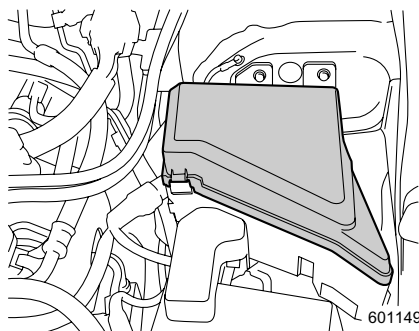
この場合、以下の手順で確認してください。

- ① エンジンスイッチをLOCKまたはOFFにします。
- ② ヒューズが切れていないかを点検します。
 - 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認し、点検します。
- ③ 切れているときは、ヒューズを交換します。

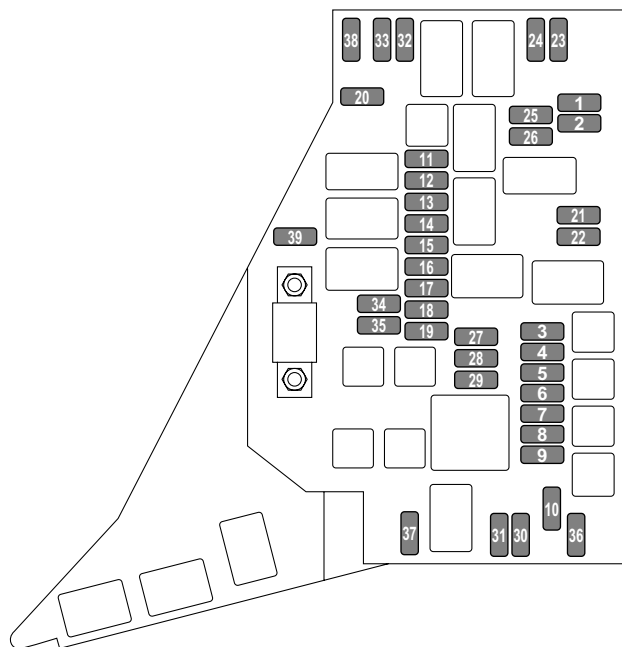
■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。



エンジンルームヒューズボックス



601150

No.	表示	内容	容量 (A)
1	CVT +B	CVTコントロールユニット	20
2	ALT-S	オルタネーター	7.5
3	*3	アイドリングストップ (オートスタートストップ)	10
4	BLOWER	ブロアーファンリレー	15
5	BLOWER	ブロアーファンリレー	15
6	AUDIO	オーディオ、ナビゲーション	25
7	SUB FAN	ラジエーターサブファン	25
8	MAIN FAN	ラジエーターメインファン	25
9	ABS SOL	ABS VDCユニット	30
10	BACKUP	バックアップ (ボディ統合ユニット)	20
11	SUNROOF	サンルーフ	20
12	EGI +B	エンジンコントロールユニット	7.5

※ グレードおよび装備により、ヒューズの有無があります。

次ページへ ⇒

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

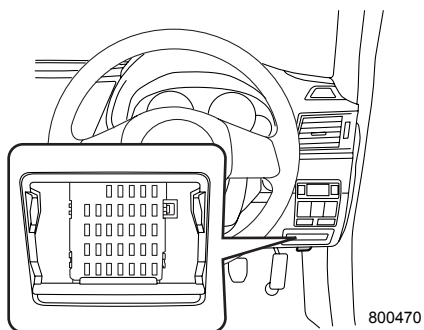
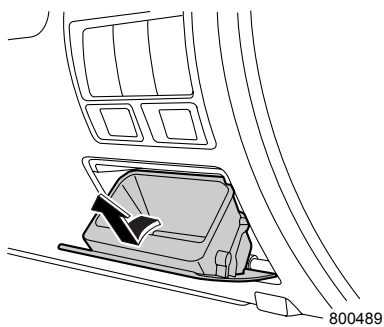
⇒前ページより

No.	表示	内容	容量 (A)
13	EGI (ETC)	エンジンコントロールユニット (電子制御スロットル)	15
14	IGN COIL	イグニッションコイル	15
15	EGI (HTR)	エンジンコントロールユニット (排気センサー)	15
16	EGI (CTRL)	エンジンコントロールユニット (電源)	15
17	*2	バックアップ (オートマチック車: ATユニット用電源)	10
		インジェクタ (2.0Lのターボ車)	20
18	HAZARD	ターンハザード (ボディ統合ユニット)	15
19	D/L	ボディ統合ユニット (ドアロック)	20
20	FUEL PUMP	フューエルポンプ	20
21	空き	—	—
22	R. DEF	リヤウインドウデフォグガー、ヒートドドアミラー	25
23	H/L LO LH	フロントヘッドランプ ロービーム 左側	15
24	H/L LO RH	フロントヘッドランプ ロービーム 右側	15
25	H/L HI LH	フロントヘッドランプ ハイビーム 左側	10
26	H/L HI RH	フロントヘッドランプ ハイビーム 右側	10
27	R. WIPER	リヤワイパー & ウォッシャー	15
28	F. WASHR	フロントウォッシャー、ヘッドランプウォッシャー	10
29	F. WIPER	フロントワイパー	30
30	F. FOG LH	フロントフォグラмп 左側	10
31	F. FOG RH	フロントフォグラмп 右側	10
32	HORN CTR	ホーン (中央)	7.5
33	HORN RH	ホーン (右側)	7.5
34	ILLUMI	イルミネーション	10
35	TAIL	リヤコンビランプ	10
36	空き	—	—
37	空き	—	—
38	CVT VCC	CVT	7.5
39	EYESIGHT	アイサイト用カメラユニット	10

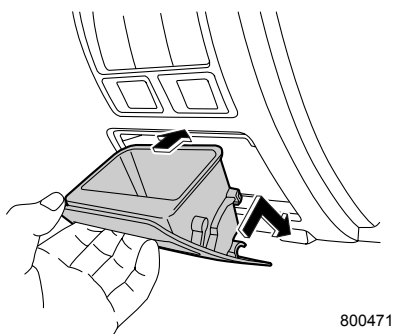
※ グレードおよび装備により、ヒューズの有無があります。

●室内

コイントレイを開け、コイントレイを引き取り外します。

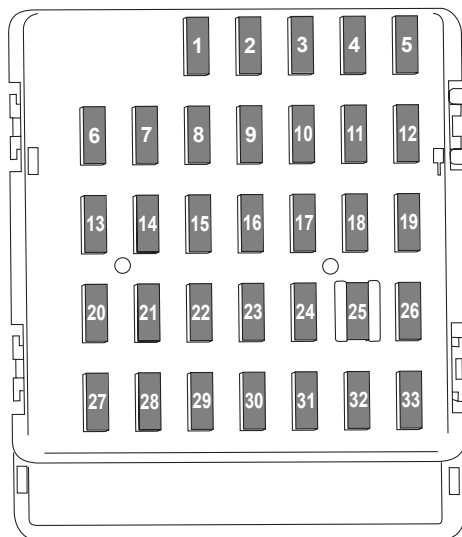


取り付けるときは、下側のツメを確実に合わせて取り付けてください。



ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

室内ヒューズ&リレーボックス



600701

No.	表示	内容	容量 (A)
1	TRAIL R.FOG	リヤフォグランプリレー	15
2	P/W R.LH	リヤパワーウィンドウ左側	20
3	P/W MAIN2	フロントパワーウィンドウ運転席側	20
4	IG2	ナビゲーションシステム、ワイパーデアイサー、サンルーフ	7.5
5	METER IG	コンビメーター	7.5
6	MIR	リモコンミラー	7.5
7	UNIT +B	統合ユニット	7.5
8	STOP	ストップランプ	15
9	SEAT HTR	シートヒーター	15
10	D-OP +B	OP用パワーサプライ	7.5
11	TURN IG	ターンシグナルユニット	7.5
12	UNIT IG1	総合ユニット、エンジンコントロールユニット	15
13	12V SOCKET	電源ソケット	20
14	BACK UP	バックアップ (室内ランプ類、OP用)	10

No.	表示	内容	容量 (A)
15	P/W R.RH	リヤパワーウィンドウ右側	20
16	空き	—	—
17	WIPER DEICE	ワイパーデアイサー	15
18	LAMP IG	バックランプリレー、オートヘッドランプレベラー	7.5
19	PARK BRAKE	ヒルスタートアシストスイッチ、 電動パーキングブレーキユニット	7.5
20	CIGAR	シガレットライター、電源ソケット	10
21	START	スターターリレー	7.5
22	A/C IG	エアコン	15
23	空き	—	—
24	AUDIO NAVI	オーディオ、ナビゲーションシステム	15
25	SRS AIR BAG	SRSエアバッグシステムメイン	15
26	IG1	メインファンリレー	7.5
27	P/W MAIN1	パワーウィンドウ	30
28	空き	—	—
29	P/W PASS	フロントパワーウィンドウ助手席側	20
30	空き	—	—
31	ACC	オートエアコンユニット	7.5
32	STRG LOCK	ステアリングロックユニット	7.5
33	UNIT IG2	ABS VDCユニット、パワーステアリング	7.5

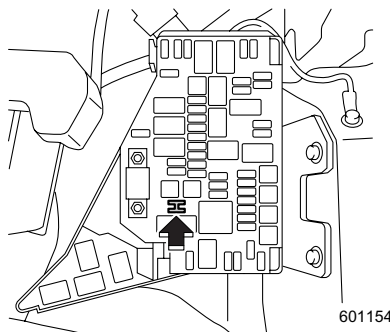
ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

■ヒューズの点検・交換

●ヒューズの外しかた

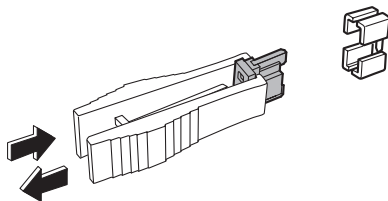
故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認します。

ヒューズプラーをエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。



601154

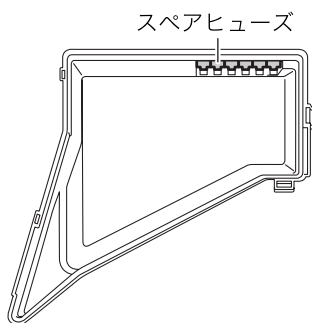
ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。



800381

●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア (7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個) と交換してください。

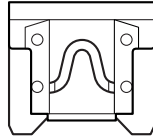


800385

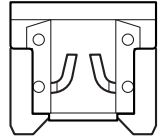
ヒューズボックスカバーの裏

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

切れていない状態



切れている状態



800472

⚠ 注意

ヒューズを交換するときは必ず次のことをお守りください。

- 必ずエンジンスイッチをLOCKまたはOFFにしてください。ONやAccの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

🏠 アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

- ランプ類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

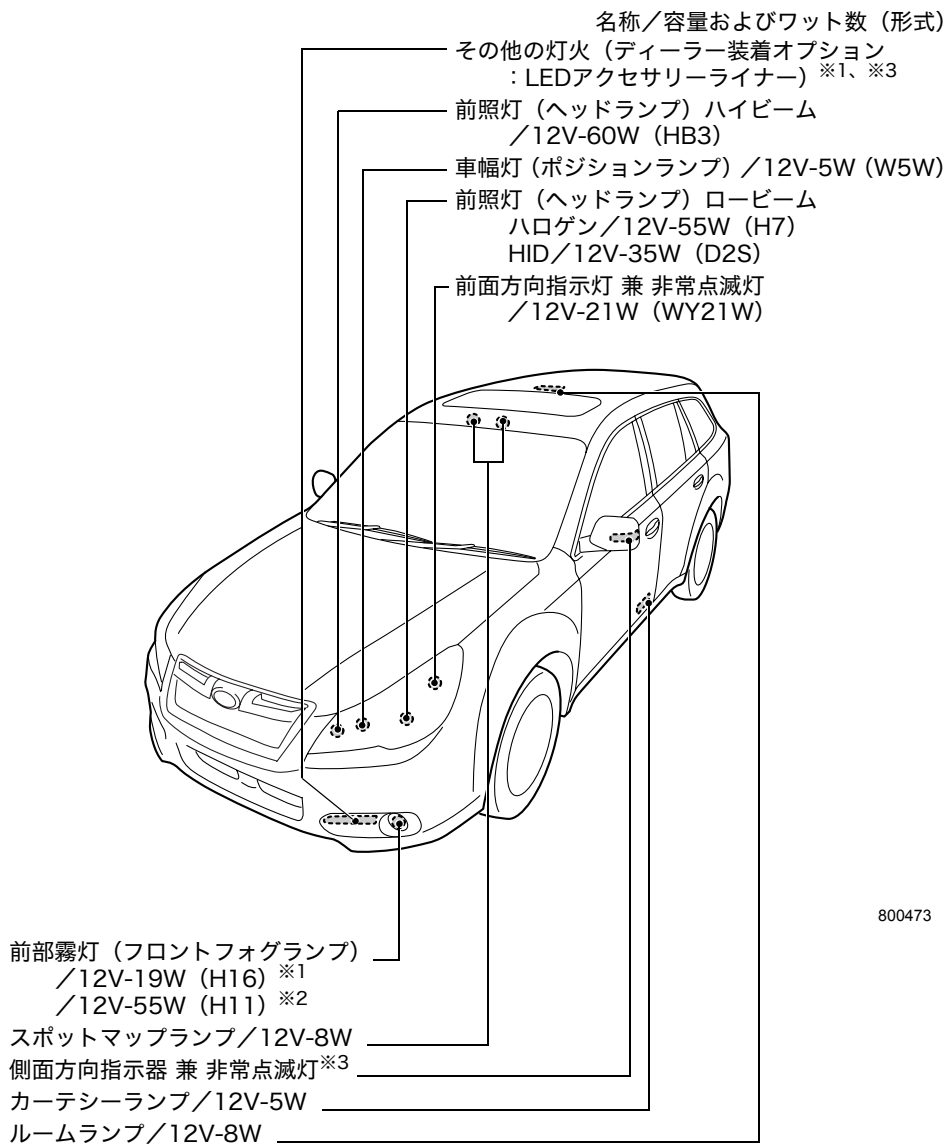
☆8-40ページ参照

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ランプ類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

電球（バルブ）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。



800473

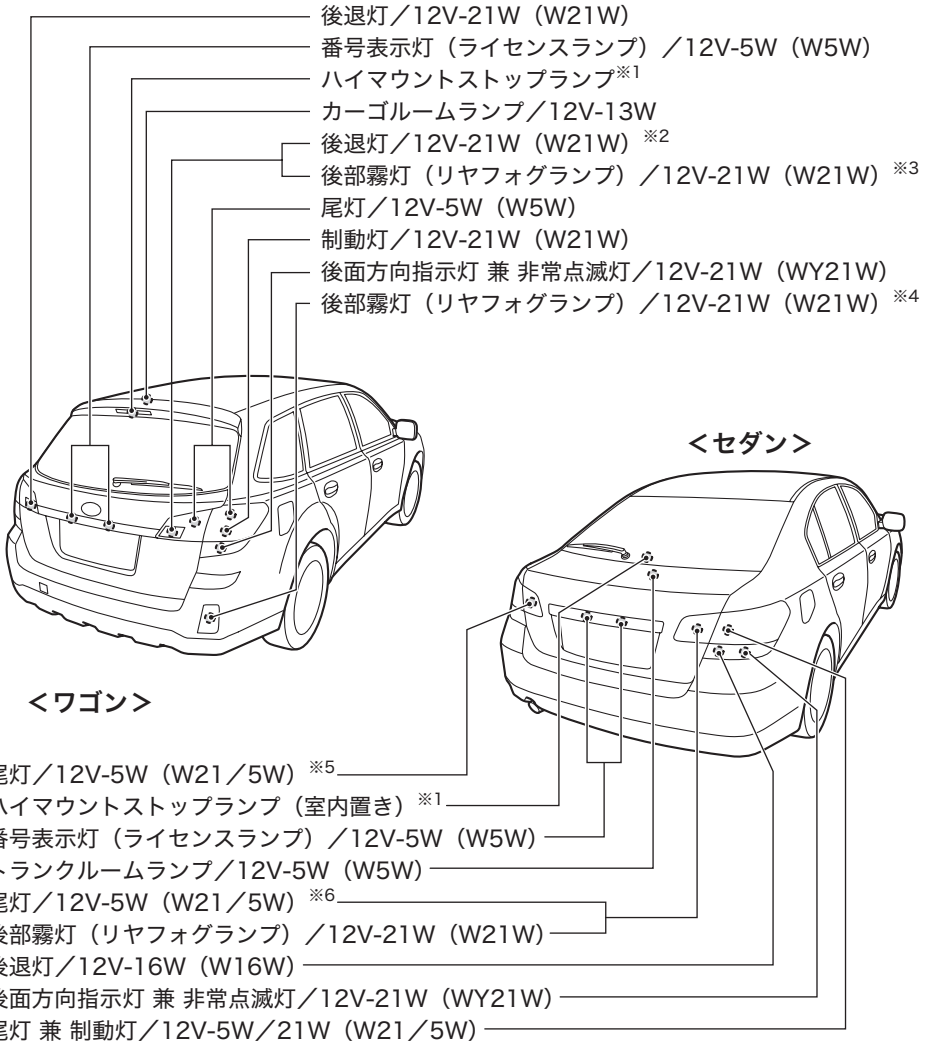
※1 OUTBACK以外

※2 OUTBACK

※3 LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

名称/容量およびワット数 (形式)



※1 LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

※2 ツーリングワゴンのリヤフォグランプ装備車以外およびOUTBACK

※3 OUTBACK以外

※4 OUTBACK

※5 リヤフォグランプ装備車は点灯しません。

※6 リヤフォグランプ装備車以外

万
一
の
と
き

警告

- HIDヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと、感電するおそれがあります。HIDヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

注意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには十分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

アドバイス

- 電球が点灯しない場合、ヒューズが切れていることがあります。ヒューズの点検も行ってください。

☆8-32ページ参照

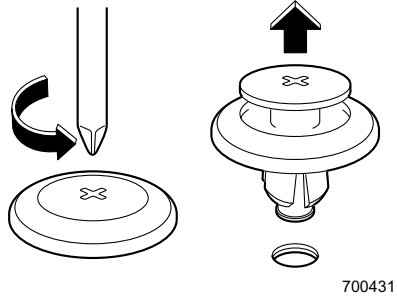
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差による空気中の水分が付着するもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。
- 室内灯を外す場合などでマイナスドライバーを使用するときは、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。

- ランプ本体をネジで締め付けるとき、締め過ぎてランプ本体を割らないように気をつけてください。

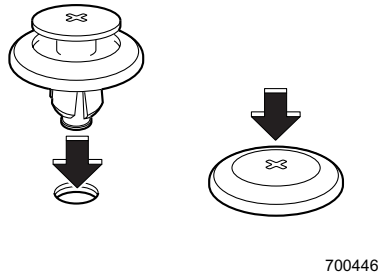
交換電球によりクリップを外す作業があります。クリップは4種類ありますので、それぞれ次の手順で取り外してください。

タイプA

- ① プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

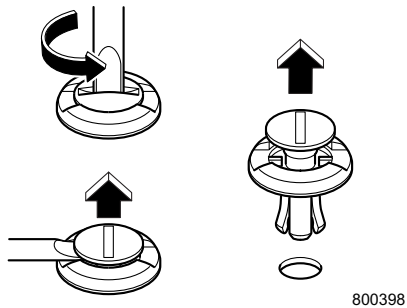


- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。



タイプB

- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
- ② マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
- ③ クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

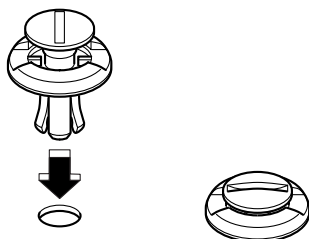


次ページへ ⇒

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

⇒前ページより

- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。



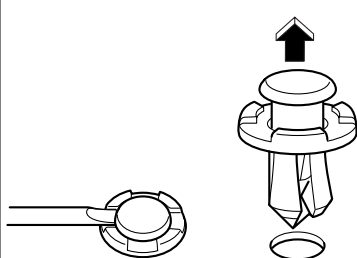
800399

タイプC、タイプD

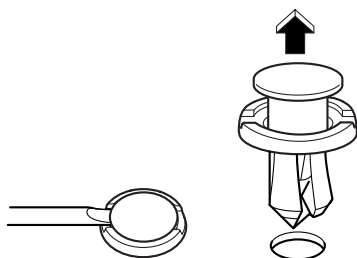
- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

タイプC

タイプD



600835

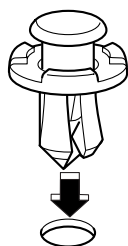


800394

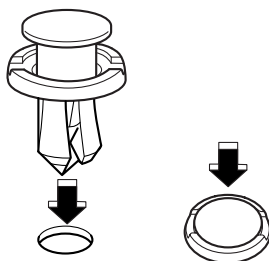
- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

タイプC

タイプD



600836



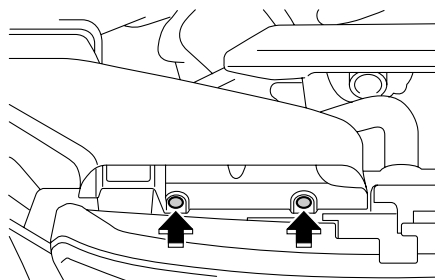
800395

■前照灯（ヘッドランプ）ハイビーム、車幅灯（ポジションランプ）

●準備

運転席側の電球を交換するときは、クリップを外し、エアインテークダクトを外します。

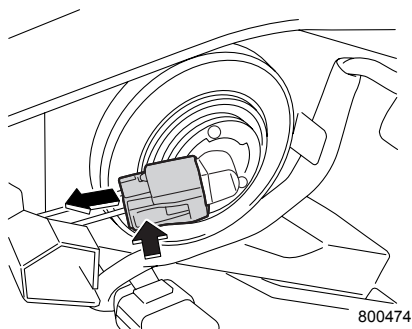
☆8-43ページ参照



601120

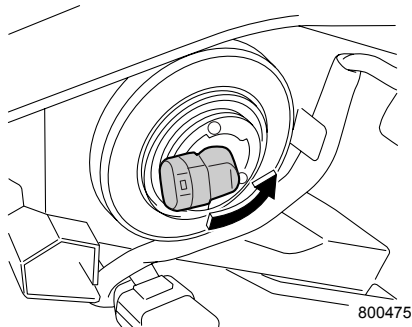
●ハイビーム

① ツメを押しながらコネクターを外します。



800474

② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

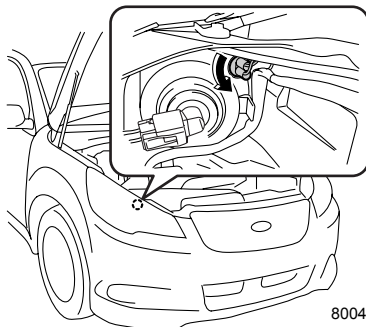


800475

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

●車幅灯 (ポジションランプ)

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

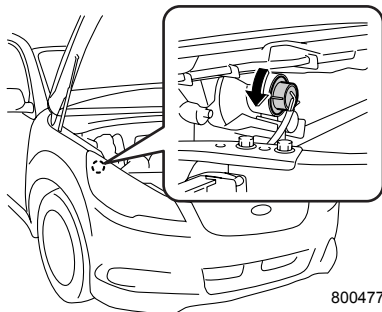


800476

- ② ソケットから電球を引き抜きます。

■前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。



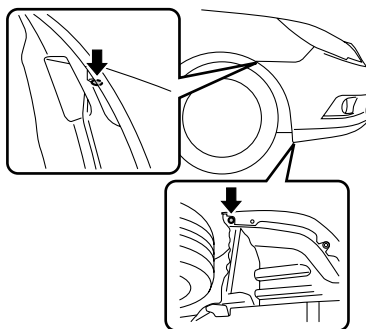
800477

- ② ソケットから電球を引き抜きます。

■前照灯 (ヘッドランプ) ロービーム (ハロゲンヘッドランプ装備車) ●

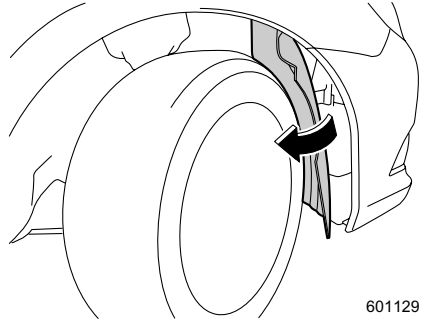
- ① エンジンをかけ、交換する電球の側と反対側にハンドルをいっぱいに回します。
- ② エンジンを停止します。
- ③ フェンダー内張りのクリップを外します。

☆8-43ページ参照



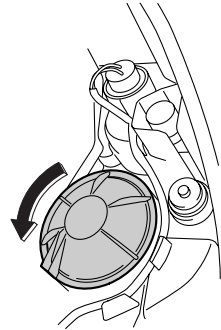
601128

④ 内張りをめくります。



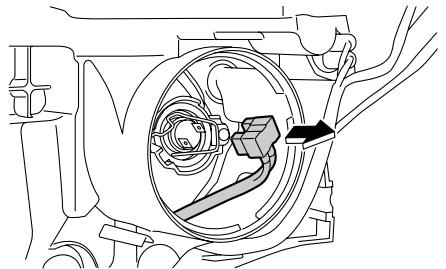
601129

⑤ バックカバーを反時計回りに回し取り外します。



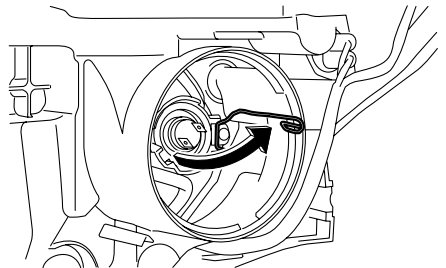
601122

⑥ コネクターの端子を抜きます。



601203

⑦ 電球を押さえている止め金を外します。



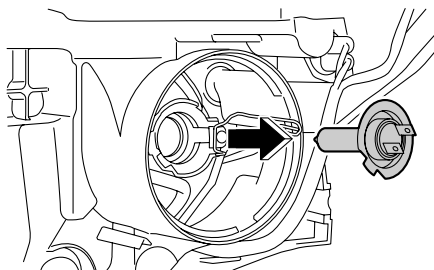
601204

次ページへ ⇒

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

⇒前ページより

⑧ 電球を引き抜きます。

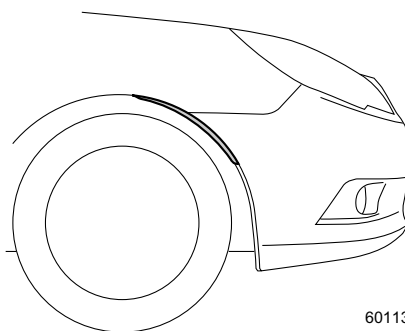


601205

🏠 アドバイス

- バックカバーは確実に取り付けてください。
- 電球交換作業後は、フェンダー内張りを元の状態に戻してからクリップを取り付けてください。

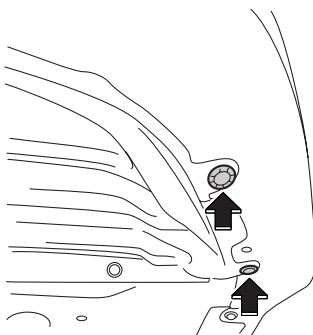
☆8-43ページ参照



601130

■前部霧灯 (フロントフォグランプ) 🚗

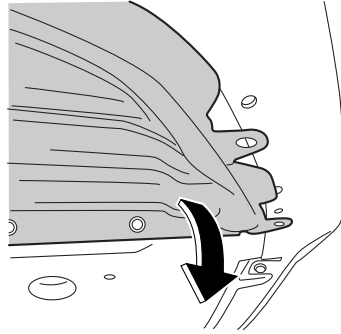
① フロントアンダーカバーのクリップを外します。



800478

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

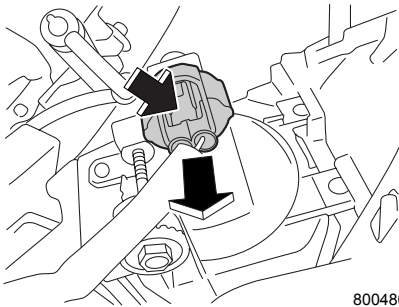
② フロントアンダーカバーをめくります。



800479

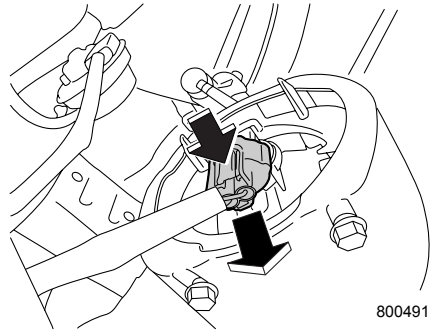
③ ツメを押しながらコネクターを外します。

<OUTBACK以外>



800480

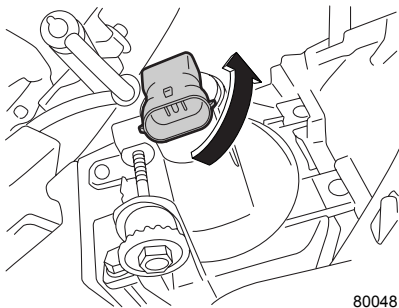
<OUTBACK>



800491

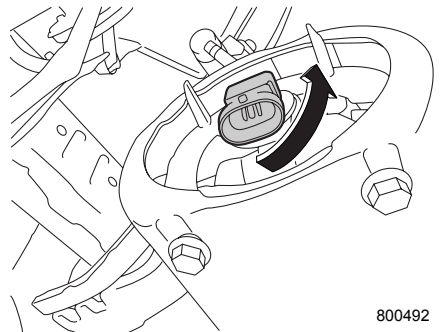
④ ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

<OUTBACK以外>



800481

<OUTBACK>



800492

万
一
の
た
ま

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

🏠 アドバイス

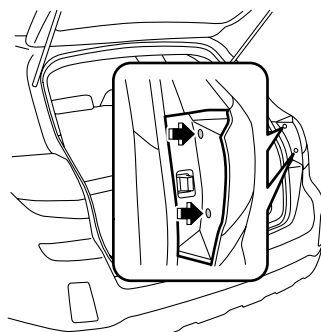
電球交換作業後は、フロントアンダーカバーを元の状態に戻してからクリップを取り付けてください。

☆8-43ページ参照

■リヤコンビネーションランプ

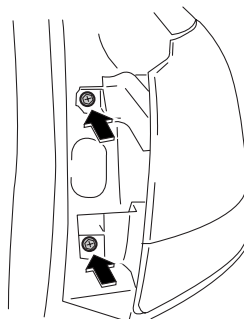
●ワゴン：尾灯、制動灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

- ①クリップを外し、カバーを上にはずして外します。



601144

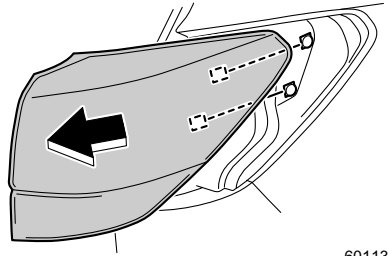
- ②ネジを2本外します。



800482

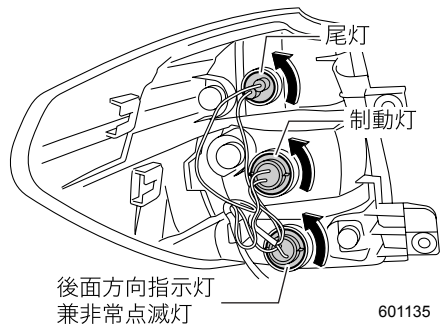
ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

③ ランプ本体を外します。



601134

④ ソケットを反時計回りに回し、ソケットを
引き抜きます。

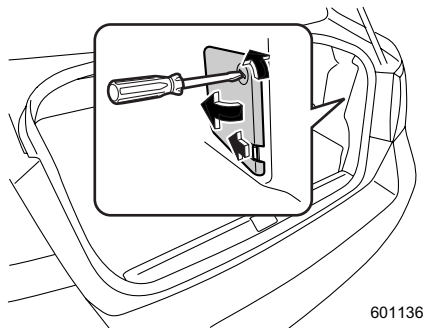


601135

⑤ ソケットから電球を引き抜きます。

●セダン：尾灯 兼 制動灯、後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

- ① トランクリッドを開けます。
- ② カバーのノブを90° 回し、カバーを取り外
します。



601136

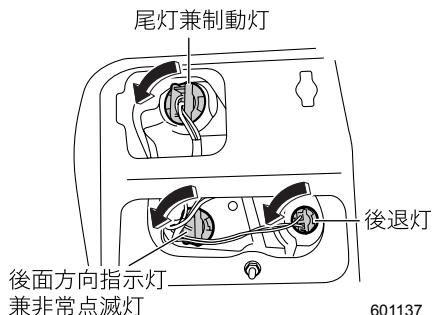
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

⇒前ページより

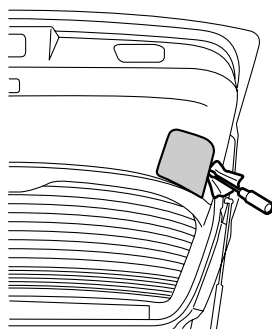
- ③ ソケットを反時計回りに回しソケットごと引き抜きます。



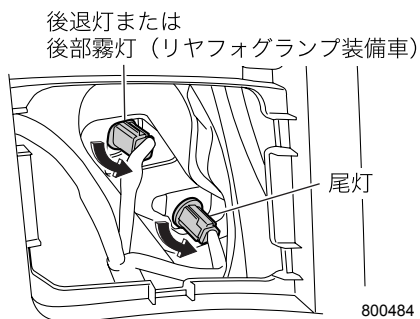
- ④ ソケットから後退灯、尾灯兼制動灯、後面方向指示灯兼非常点滅灯の電球を引き抜きます。

■ 尾灯、後部霧灯（リヤフォグランプ装備車）または後退灯（ワゴン）

- ① リヤゲートを開けます。
- ② リヤゲート裏のトリムにマイナスドライバーを差し込み、カバーを取り外します。

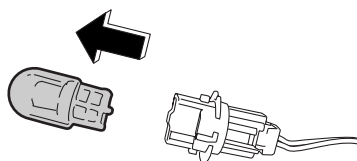


- ③ ソケットを反時計回りに回し引き抜きます。



ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

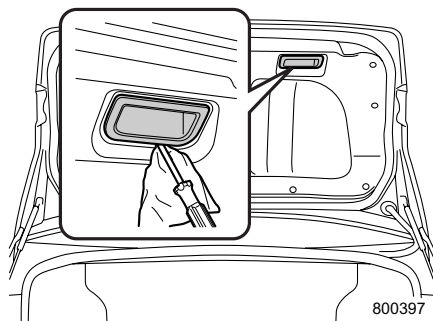
- ④ ソケットから電球を引き抜きます。



601140

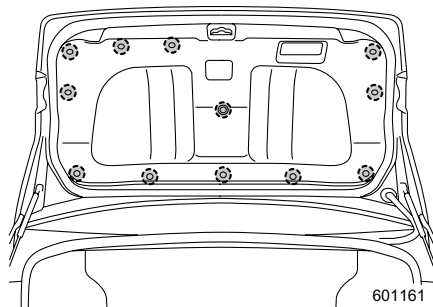
■ 後部霧灯（リヤフォグランプ装備車）または尾灯、番号表示灯（セダン）

- ① トランクを開け、トランクインナーハンドルを外します。



- ② 内張りのクリップ（12本）を外します。

☆8-43ページ参照

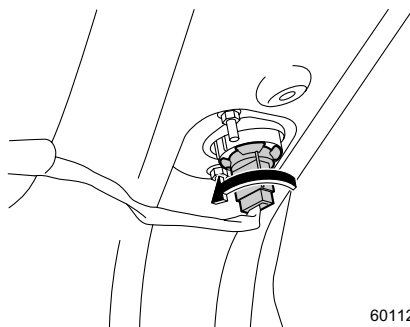


万
一
の
と
き

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

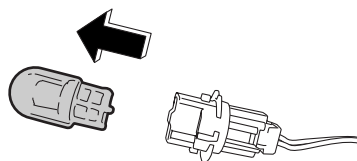
●後部霧灯（リヤフォグランプ装備車）または尾灯

- ① ソケットを反時計回りに回し引き抜きます。



601124

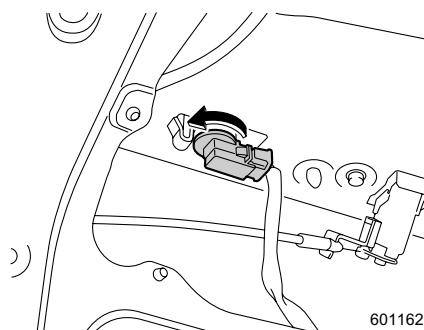
- ② ソケットから電球を引き抜きます。



601140

●番号表示灯

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。



601162

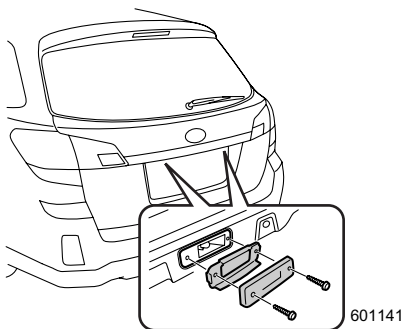
- ② ソケットから電球を引き抜きます。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

■番号表示灯（ライセンスランプ）

●ワゴン

①ネジ（2本）を外し、レンズを外します。



②ソケットから電球を引き抜きます。

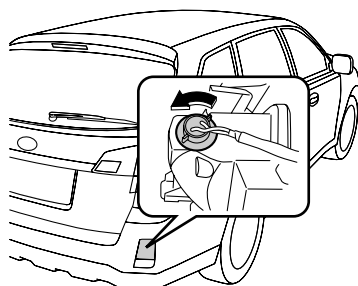


600845

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

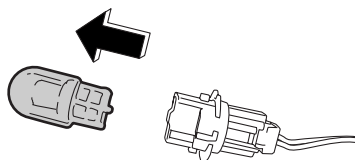
■後部霧灯（OUTBACKのリヤフォグランプ装備車）

- ① リヤバンパー裏側にあるソケットを、反時計回りに回し引き抜きます。



800380

- ② ソケットから電球を引き抜きます。



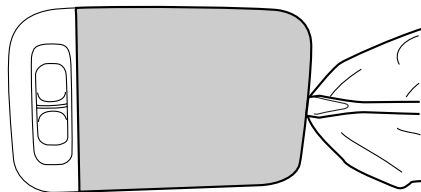
601140

警告

やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。

■カーゴルームランプ（ワゴン）

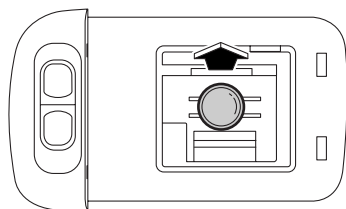
- ① 本体の縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



800386

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

② 電球を引き抜きます。



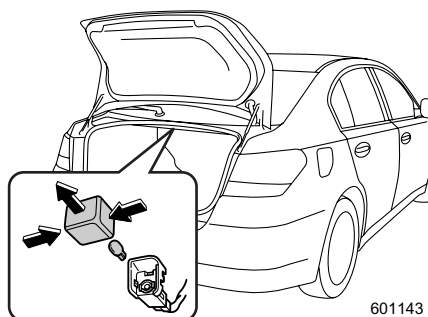
600906

アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

■トランクルームランプ (セダン)

- ① トランクリッドを開けます。
- ② レンズの側面を押しながら、レンズを手前に引き抜きます。
- ③ ソケットから電球を引き抜きます。

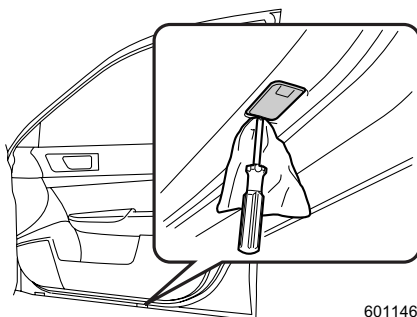


601143

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

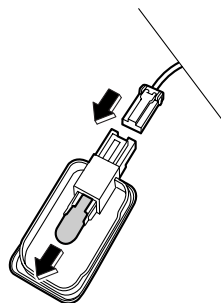
■カーテシーランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



601146

- ② コネクターを外してから電球を引き抜きます。



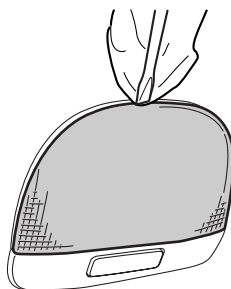
601147

🏠 アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

■ルームランプ

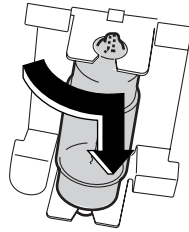
- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



800387

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963

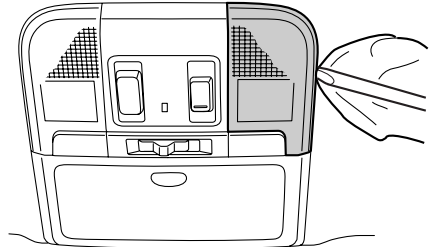


アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

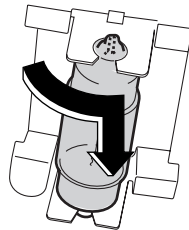
■ スポットマップランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



800496

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963

万
一
の
と
き

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

■その他のランプ

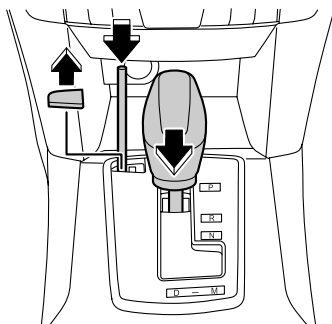
スバル販売店へ交換を依頼してください。

セレクトレバーが動かないとき(オートマチック車およびCVT車)

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

- ① 電動パーキングブレーキを確実にかけます。
- ② マイナスドライバーでシフトロックカバーを外します。
- ③ ブレーキペダルを踏みながら、柄を取った車載工具のドライバーを挿入してシフトロック解除ボタンを押し、セレクトレバーを動かします。

シフトロックカバーを外すときにマイナスドライバーを使用する場合は、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。



301441

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

電動パーキングブレーキが解除できないとき

アクセルを踏む、またはパーキングスイッチを押しても電動パーキングブレーキが解除されない場合には、故障のおそれがあります。最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡してください。スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合はJAFロードサービスなどに連絡してください。

☆3-63ページ参照

警告

- システム異常により、電動パーキングブレーキが作動しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。やむなく駐車する場合は、水平な場所に停車し、セレクトレバーを[P]にして輪止め（タイヤストッパー）を行ってください。
- 走行するときは電動パーキングブレーキを解除し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。システムに異常があり、電動パーキングブレーキが作動したまま走行すると、ブレーキ部品が早く磨耗する場合があります、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

注意

車から離れるときは必ずエンジンを停止してください。電動パーキングブレーキが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■解除のしかた

緊急の場合で電動パーキングブレーキを解除する必要があるときは、次の手順で手動解除できます。

- ① セレクトレバーを[P]にします。
- ② エンジンスイッチをLOCK (OFF) にします。
このとき、電動パーキングブレーキ警告灯、電動パーキングブレーキスイッチ表示灯が消灯していることを確認してください。
- ③ 輪止め（タイヤストッパー）をします。
- ④ 電動パーキングブレーキ解除工具を取り出します。

☆8-5ページ参照

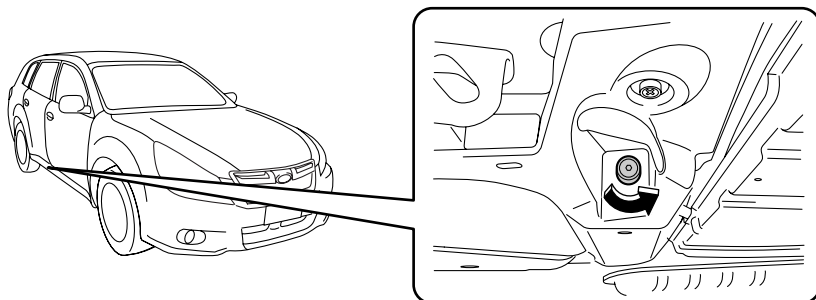
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

⇒前ページより

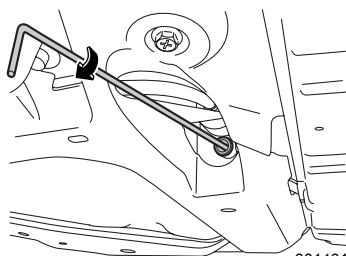
⑤ 解除装置のキャップに解除工具を差し込み、反時計回りに回してキャップを取り外します。



800485

⑥ 白いフィルム部を破って解除装置に解除工具を差し込み、時計回りに200回～250回、回してください。

解除されたかを確認するには、輪止め（タイヤストッパー）を少しずらしてセレクトレバーを **N** にし、車両を前後に押してください。



301401

⑦ ⑤で取り外したキャップを解除装置に取り付けます。

警告

- 坂道など平坦でない場所で解除操作を行わないでください。車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキを手動解除するときは、必ずセレクトレバーを **P** にし、輪止め（タイヤストッパー）をしてください。車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキを手動解除するときは、必ずエンジンスイッチを LOCK (OFF) にし、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。
エンジンスイッチが ON の状態で手動解除を行うと、システムが作動して差し込んだ解除工具が回転し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 解除操作を行った後は、すみやかにスバル販売店、スバル指定サービス工場 で点検を受けてください。
電動パーキングブレーキが作動しないため、停車時に車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

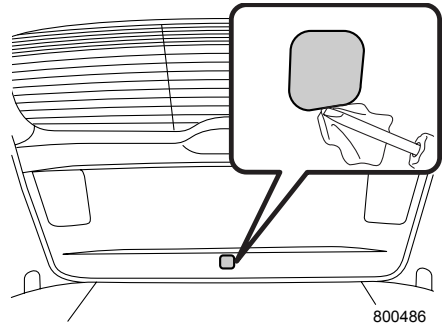
注意

- 解除装置に解除工具を差し込んだ場合、反時計回りまたは300回以上回したときは、電動パーキングブレーキが故障する原因となります。
- 電動工具を使用して解除しないでください。電動パーキングブレーキが故障する原因となります。
- キャップが外れないときは、作業を止めてスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡してください。
- 解除を行った場合は、外したキャップを必ず取り付けてください。また、雨天などでは解除操作を行わないでください。解除装置に水が入り、故障するおそれがあります。

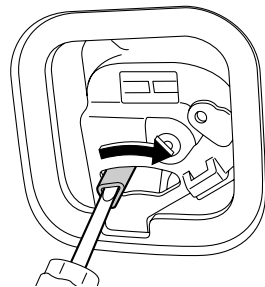
リヤゲートの解錠ができなくなったとき

バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのカバーを外します。



② マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。



注意

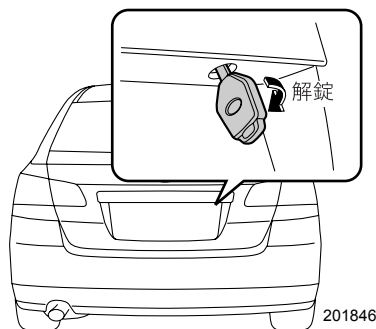
- 応急処置用解錠レバーは指で操作しないでください。けがをするおそれがありますので、必ずドライバーなどを使用してください。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

トランクの解錠ができなくなったとき

バッテリー上がりやトランクオープナースイッチの故障などでトランクの解錠ができなくなった場合は、キーを使い解錠することができます。

キーまたはメカニカルキーを確実に差し込んで時計回りに回すと解錠されます。



アドバイス

盗難警報装置が作動している場合は警報が鳴ります。

サンルーフが閉まらないとき

スバル販売店で点検整備を受けてください。

アクセスキーが正常に作動しないとき

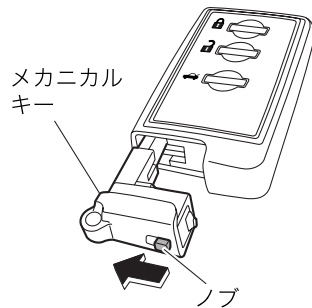
強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

☆7-20ページ参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

アクセスキーのノブを引きながらメカニカルキーを取り出します。

メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。



701179

🏠 アドバイス

- 盗難警報装置が作動している場合は警報が鳴ります。
アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照して電源 ON またはエンジン始動をしてください。

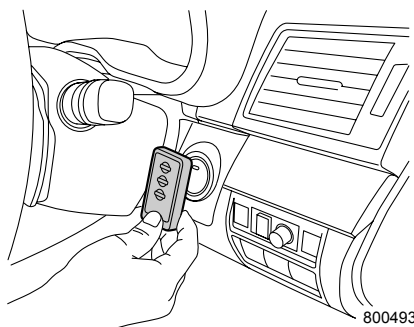
☆8-66ページ参照

- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

- ① 電動パーキングブレーキスイッチを引き、電動パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。
アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー（ポーン）が鳴り、電源が入ります。ただし車両状態により、入る電源は次のようになります。
 - 電池切れまたは電波妨害のとき、電源はONになります。
 - キーレスアクセス機能が停止状態のとき、電源はAccになります。
- ⑤ 電源がAccまたはONになってから次の操作を行います。
 - エンジンを始動するときは、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。
 - 電源をONにするときは、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します（電源がAccのとき）。



⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 アドバイス

- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しない場合があります。